

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

食中毒にご用心!

どうして食中毒になるの?

食中毒とは、食中毒を起こすもととなる細菌やウイルスなどの有毒な物質がついた食べ物を食べることで、下痢や腹痛、発熱、吐き気といった症状が出る病気のことです。食中毒の予防を考えるうえで最も大切といわれている3原則というものがあります。

つけない

調理に従事している人の手や調理器具を清潔に保つことと、食材に付着している菌を他の食材や器具に移さないことが重要です。調理前やトイレの後は必ずよく手を洗いましょう。調理器具等は用途別に使い分け、洗浄・消毒しましょう。

ふやさない

食品を保存する温度が高いと、食中毒を引き起こす細菌が急速に増えます。原材料も調理品も適切な温度で保管し、できるだけ早く食べましょう。冷蔵庫で保管する際は温度が低いほど菌の増殖が抑えられるため、冷蔵庫内の温度管理が必要となります。

やっつける

生の肉、魚介類等には食中毒を引き起こす細菌やウ



イルスがついていることがあります。加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱しましょう。中心部を75℃で1分以上加熱することが目安です。【☑】

(栄養管理室長 金子 友美)



どうしたらできるかを考えよう！

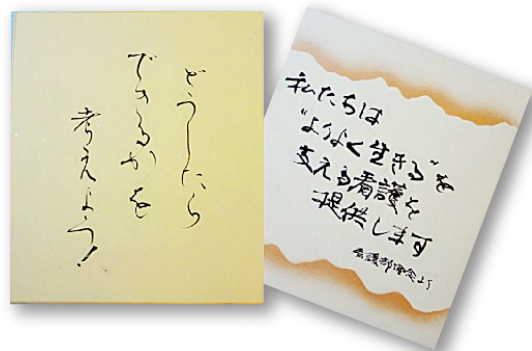
教育担当師長 今里 純子

「どうしたらできるかを考えよう!」、これは2020年度看護部のスローガンです。

脳には「愉快脳」と「不快脳」という2つの使い方ががあるそうです。前者は『希望を前提としている「〇〇したい」というときの状態で、好奇心やイメージ力がどんどん湧いてくる』。後者は『不安を前提にしているときの状態で「〇〇しなきゃ」と不安ゆえに対策を立てたり、それを回避しようと必死になる思考パターン』ということだそうです。

【できない理由探し】をするのではなく、愉快脳のスイッチをいれ【どうしたらできるか】を考え、想像から創造に繋げられるよう取り組んでいきたいと思っております。

どうしたら患者さん、ご家族に安心・安全な看護を提供できるのか、どうしたら看護部理念でもある



「よりよく生きる を支える看護」に繋げられるのかを考え、今年度は全部署【看護体制】の充実に向けて取り組んでいるところです。

コロナ感染の影響で、いろいろなことが制限され大変な時期ですが、みなさんも愉快脳のスイッチをいれ「今だからこそできること」を考えて、前向きに過ごしてみませんか？



ウォーキングカンファレンスを始めました！

4階病棟 看護師長 穎川 俊也

4階病棟では転倒防止対策として5月末よりウォーキングカンファレンスを開始しています。転倒の危険性が高い患者さんを中心に患者さんのベッドサイドに行き、療養環境は整っているのかなどの確認を看護師長を含む複数名の看護師で行っています。週に1回、水曜日は医師も一緒にカンファレンスに参加します。

当初、転倒防止対策として開始したウォーキングカンファレンスでしたが、患者さんの療養環境を直接確認することで参加しているスタッフから「この患者さん、生活リズムを整えるためにもっと昼間に活動してもらったほうがいいですね。」など患者さんへの看護ケアについての発言も聞かれるようになりました。

転倒防止についての取り組みも重要ですが、患者さ



ん、ご家族が少しでも「4階病棟で過ごしてよかった。」と思っただけのよう、安心・安全な看護の提供を目指して病棟全体で取り組みを継続していきたいと思います。

心不全の看護について

3階病棟 看護師長 蛭原 勇治

当院の心不全の患者教育についてご紹介します。心不全でご入院された患者さん、またそのご家族の方へは入院早期より様々な職種（医師、看護師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、地域医療連携室など）のスタッフが、入院中や退院後の療養生活を安心・安全に送っていただけるよう説明・支援を行っています。

内容は疾患の基礎知識・治療について、日常生活の注意点、症状増悪時の対応等になります。患者さんのライフスタイルを考え、不安な気持ちに寄り添いながら自己管理が出来るようサポートしています。

退院後も継続的にサポートが必要な場合は、担当ケアマネージャーや訪問看護師など退院後に関わるスタッフも交えての退院前カンファレンスを実施しています。

また、外来へ来られた時に継続した看護が提供できるよう外来看護師と情報共有し連携しています。多職種チームの専門性を発揮しながらチーム力を高め、患者さんやご家族が病気とうまく付き合いながら、その人らしく過ごせるような支援に取り組んでいます。



Nagasaki Kawatana
Medical Center



診療科紹介(小児科)

小児科医長 小森 一広

2018年夏に小児科を再開し、2年が経過しようとしています。新型コロナウイルス流行など紆余曲折の中、地道に仕事をこなしている毎日です。

仕事をしている姿より”2019年の健康フェスタでバルーンアートをやっていたおじさん”と言った方が伝わりやすいかもしれません。

基本的には15歳未満の児童を対象にした診療科ですが、一部成人の方の診察も行っています。

小児対象としては、予防接種事業（定期接種、任意接種）、乳児健診業務なども行っています。

医師一人の診療科のため、会議や出張で不在の場合もあります。ご面倒、ご不便をおかけすることもあり



ますがご容赦ください。受診前には必ずお電話をいただきますようお願いいたします。

こどもたちをみな健康な大人にすること…これが私の基本理念です。ご健康について、何かご相談がありましたら、遠慮なくお尋ねください。

部署紹介(管理課)

管理課長 山口 博司

管理課の業務は、職員の人事・給与・福利厚生に関する業務、労務管理など、職員が働きやすい環境作りを行っています。また、電話交換業務も行っており、電話の最初の窓口として、院内と院外をつなぐ役割も担っております。

患者さんと直接かかわることの少ない部署ですが、医師や看護師をはじめ職員が安心して業務に集中でき、当院の基本理念である『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。”をモットーに、より良い医



療を地域の皆様に提供できるよう、縁の下の力持ちとして、日々業務に取り組んでおります。

編集後記

脳神経内科 成田 智子

早いもので、今年も梅雨の季節となりました。新型コロナウイルスの世界的な流行におびえる人類をよそに、ツバメは巣作りをし、アジサイは咲き始め、ウグイスやホトトギスは鳴き声を競っています。

外出自粛生活が故に、人通りを避けて田舎道を散歩すると、日ごろは気づかないことに気づくこともあり、

どんなときにも季節は巡るのだなと実感させられます。

手指消毒やマスクなど、日常生活に新たに加わった習慣に不自由さを感じながらも、喜びを見つけながら日々生活し、いつの日かこの苦難を乗り越えることを願います。